

1 令和6年産花きの作付（収穫）面積及び出荷量の動向

作付（収穫）面積は、切り花類が1万2,360ha（対前年産比97%）、球根類が204ha（同89%）、鉢ものの類が1,364ha（同97%）、花壇用苗ものの類が1,193ha（同98%）となった。

出荷量は、切り花類が28億4,600万本（同94%）、球根類が5,810万球（同85%）、鉢ものの類が1億6,330万鉢（同93%）、花壇用苗ものの類が4億9,710万本（同96%）となった。

表1 令和6年産花きの類別作付（収穫）面積及び出荷量（全国）

類別	作付（収穫） 面積	出荷量	対前年産比	
			作付（収穫） 面積	出荷量
	ha	万本（球・鉢）	%	%
切り花類	12,360	284,600	97	94
球根類	204	5,810	89	85
鉢ものの類	1,364	16,330	97	93
花壇用苗ものの類	1,193	49,710	98	96

注：1 球根類及び鉢ものの類は、収穫面積である。
2 出荷量の単位は、切り花類及び花壇用苗ものの類が万本、球根類が万球、鉢ものの類が万鉢である。

2 類別・品目別の作付（収穫）面積及び出荷量の動向

(1) 切り花類

作付面積は1万2,360haで、前年産に比べ350ha（3%）減少した。

出荷量は28億4,600万本で、前年産に比べ1億8,200万本（6%）減少した。これは、作付面積の減少に加え、夏期の高温の影響により生育不良がみられたこと等による。

都道府県別出荷量割合は、愛知県が19%で最も高く、次いで沖縄県が7%、静岡県が6%、福岡県及び長野県がそれぞれ5%となっている。

品目別出荷量割合は、きくが39%で最も高く、次いで切り枝が7%、ばら及びカーネーションがそれぞれ6%、ガーベラが4%となっている。

図1 切り花類の作付面積及び出荷量の推移

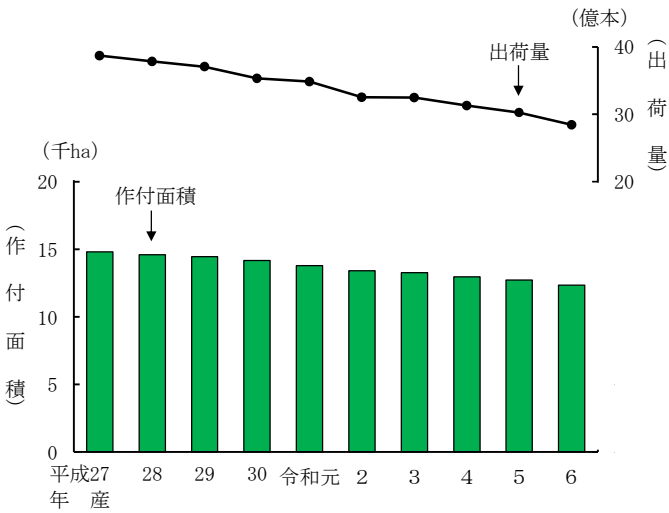
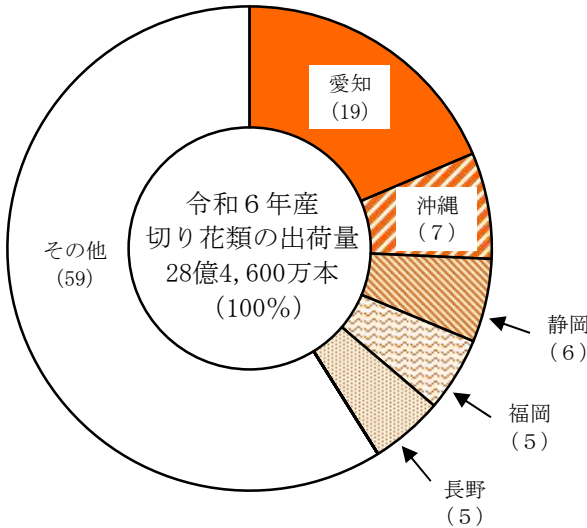


図2 切り花類の都道府県別出荷量割合



注：割合については、表示単位未満を四捨五入しているため、合計値と内訳の計が一致しない場合がある（以下図44まで同じ。）。

図3 切り花類の品目別出荷量割合

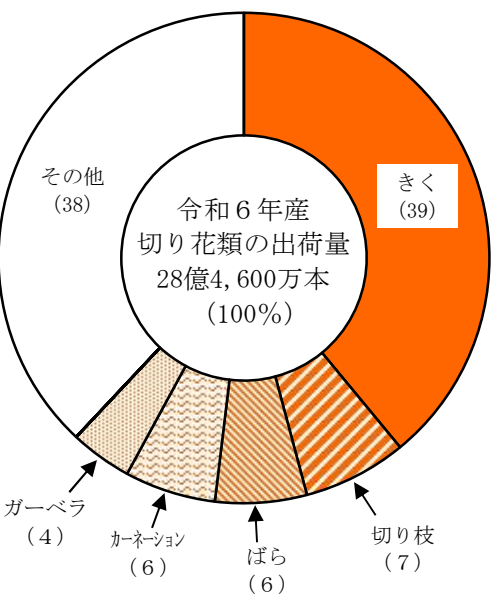


表2 令和6年産切り花類の作付面積及び出荷量（全国）

類・品目	作付面積	出荷量	対前年産比	
			作付面積	出荷量
	ha	万本	%	%
切り花類	12,360	284,600	97	94
うち きく	3,821	111,100	96	94
カーネーション	215	17,080	94	94
ばら	254	17,130	97	93
りんどう	383	6,830	98	99
宿根かすみそう	198	4,760	101	101
スターチス	164	11,220	99	99
ガーベラ	70	11,610	95	97
トルコギキョウ	380	7,830	98	93
ゆり	586	9,800	96	96
アルストロメリア	81	5,360	101	98
切り葉	542	7,400	99	91
切り枝	3,500	19,460	98	95

注：切り花類の値は、表章されている内訳品目以外の品目を含んだ合計である。

ア きく

作付面積は3,821haで、前年産に比べ158ha（4％）減少した。

出荷量は11億1,100万本で、前年産に比べ7,600万本（6％）減少した。これは、作付面積の減少に加え、夏期の高温の影響により葉焼けや芽焼けが発生したこと等による。

都道府県別出荷量割合は、愛知県が36％で最も高く、次いで沖縄県が16％、福岡県が6％、鹿児島県が5％、長崎県が4％となっており、この5県で全国の約7割を占めている。

図4 きくの作付面積及び出荷量の推移

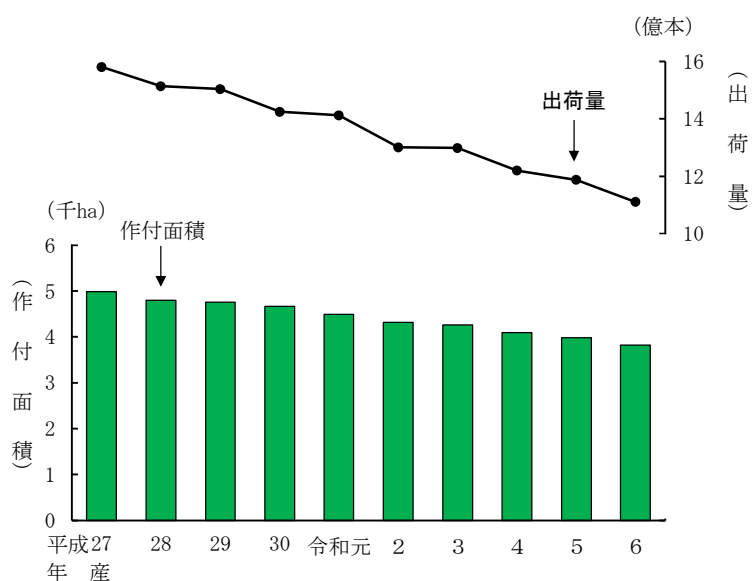
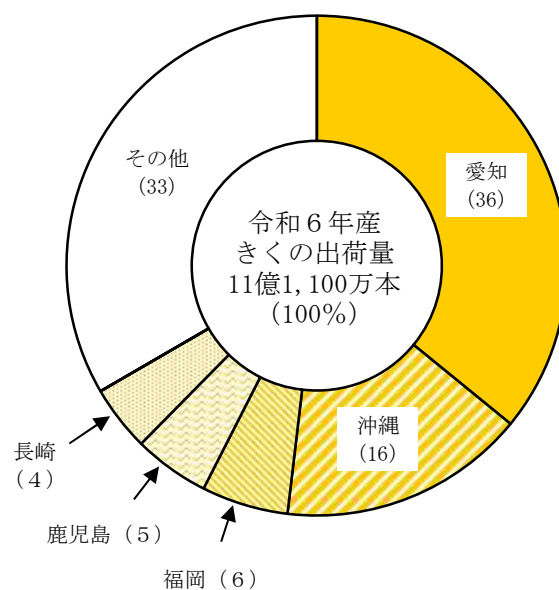


図5 きくの都道府県別出荷量割合



イ カーネーション

作付面積は215haで、前年産に比べ14ha（6％）減少した。これは、生産者の高齢化等の労力事情により規模縮小があったこと等による。

出荷量は1億7,080万本で、前年産に比べ1,180万本（6％）減少した。これは、作付面積が減少したこと等による。

都道府県別出荷量割合は、長野県が21％で最も高く、次いで愛知県が19％、千葉県が10％、兵庫県及び北海道がそれぞれ9％となっており、この5道県で全国の約7割を占めている。

図6 カーネーションの作付面積及び出荷量の推移

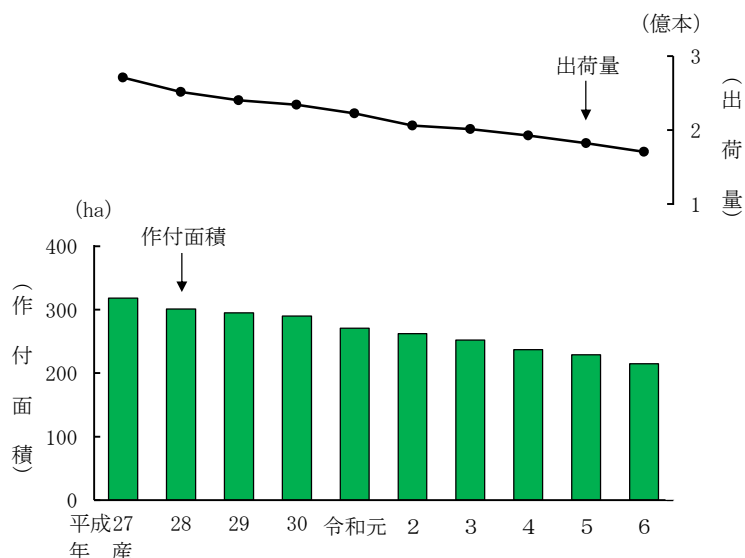
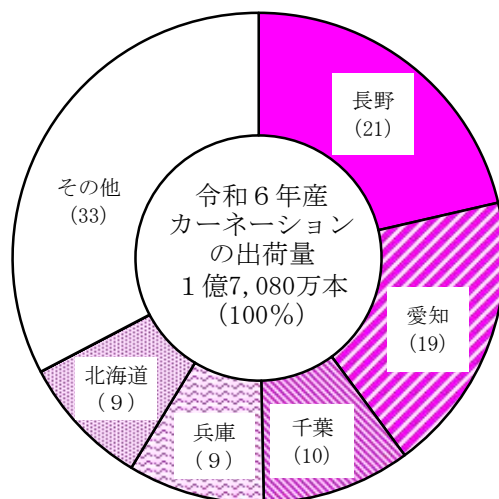


図7 カーネーションの都道府県別出荷量割合



ウ ばら

作付面積は254haで、前年産に比べ8ha（3％）減少した。

出荷量は1億7,130万本で、前年産に比べ1,230万本（7％）減少した。これは、作付面積の減少に加え、夏期の高温の影響により生育不良がみられたこと等による。

都道府県別出荷量割合は、愛知県が17％で最も高く、次いで静岡県が9％、山形県が7％、福岡県及び群馬県がそれぞれ6％となっている。

図8 ばらの作付面積及び出荷量の推移

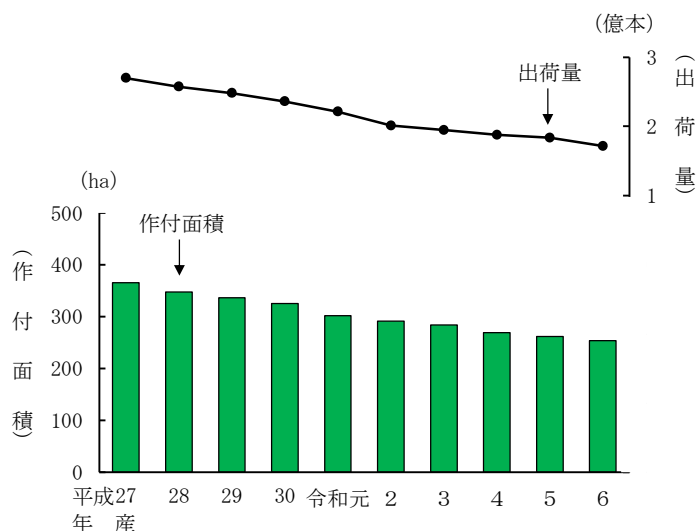
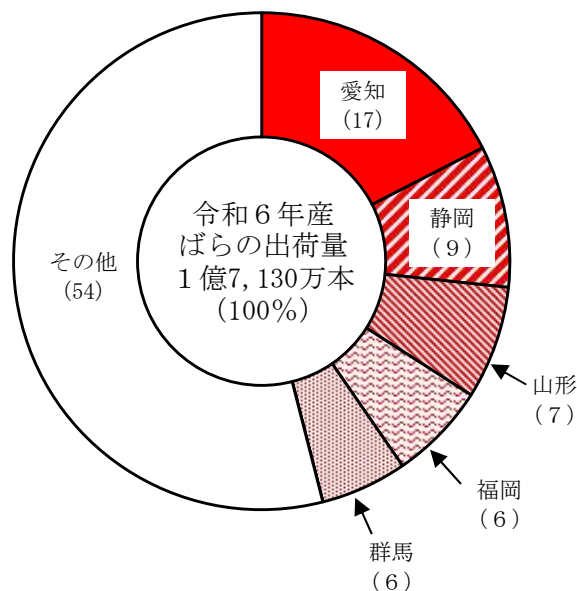


図9 ばらの都道府県別出荷量割合



エ リンどう

作付面積は383haで、前年産に比べ6ha（2％）減少した。

出荷量は6,830万本で、前年産に比べ70万本（1％）減少した。

都道府県別出荷量割合は、岩手県が60％で最も高く、次いで秋田県及び山形県がそれぞれ11％となっており、この3県で全国の約8割を占めている。

図 10 リンどうの作付面積及び出荷量の推移

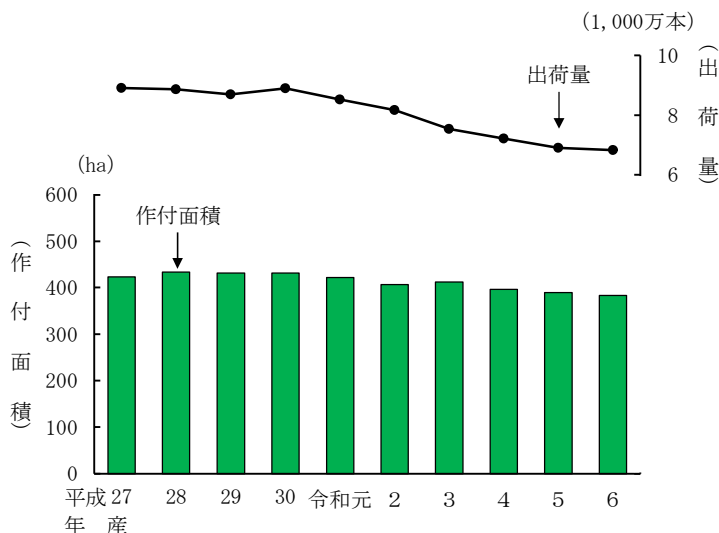
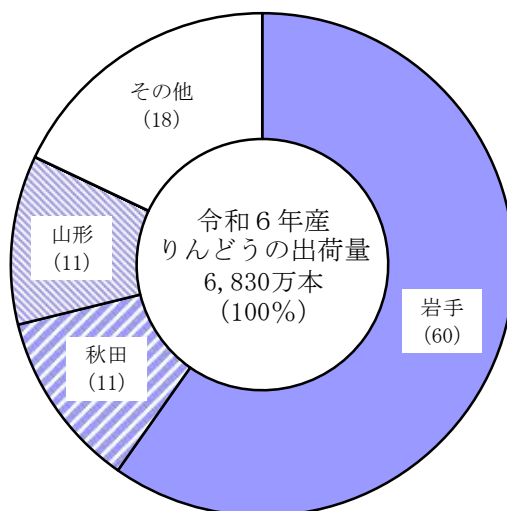


図 11 リンどうの都道府県別出荷量割合



オ 宿根かすみそう

作付面積は198haで、前年産に比べ2ha（1％）増加した。

出荷量は4,760万本で、前年産に比べ40万本（1％）増加した。

都道府県別出荷量割合は、熊本県が38％で最も高く、次いで福島県及び和歌山県がそれぞれ20％、北海道が5％となっており、この4道県で全国の約8割を占めている。

図 12 宿根かすみそうの作付面積及び出荷量の推移

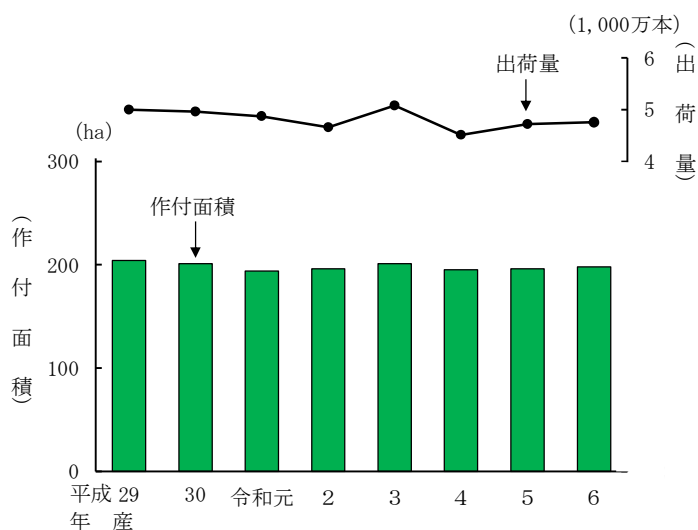
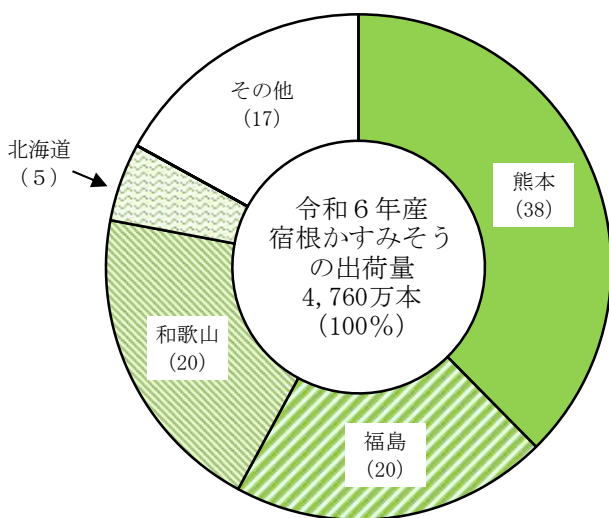


図 13 宿根かすみそうの都道府県別出荷量割合



カ スターチス

作付面積は164haで、前年産に比べ2ha（1％）減少した。

出荷量は1億1,220万本で、前年産に比べ110万本（1％）減少した。

都道府県別出荷量割合は、和歌山県が57%で最も高く、次いで北海道が24%となっており、この2道県で全国の約8割を占めている。

図 14 スターチスの作付面積及び出荷量の推移

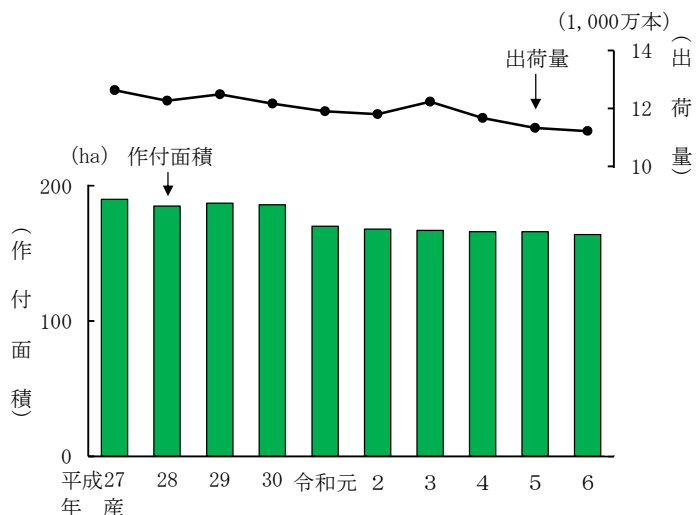
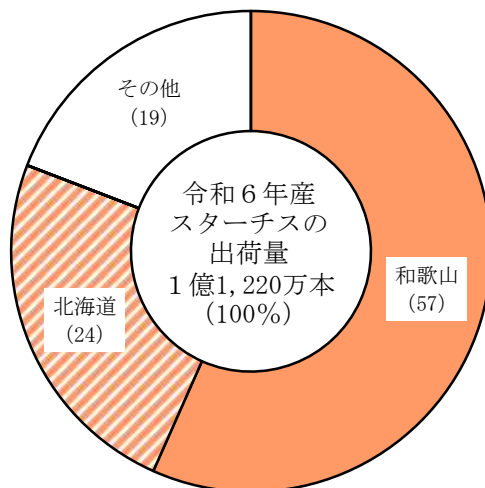


図 15 スターチスの都道府県別出荷量割合



キ ガーベラ

作付面積は70haで、前年産に比べ4ha（5％）減少した。

出荷量は1億1,610万本で、前年産に比べ380万本（3％）減少した。

都道府県別出荷量割合は、静岡県が39%で最も高く、次いで福岡県が16%、和歌山県が9%、愛知県が7%、千葉県が6%となっており、この5県で全国の約8割を占めている。

図 16 ガーベラの作付面積及び出荷量の推移

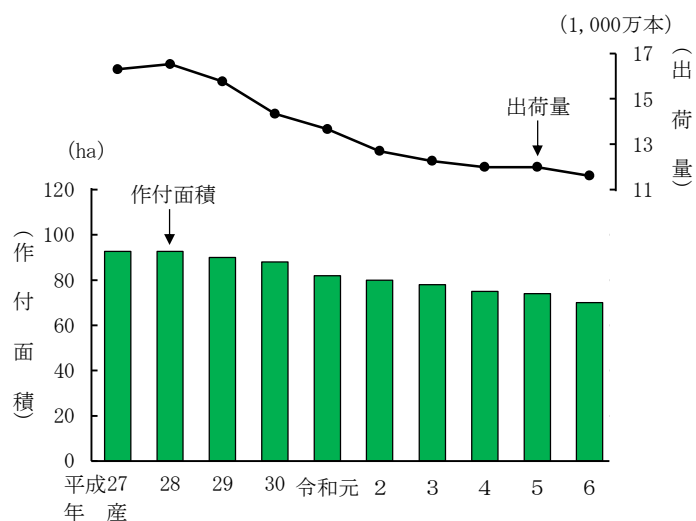
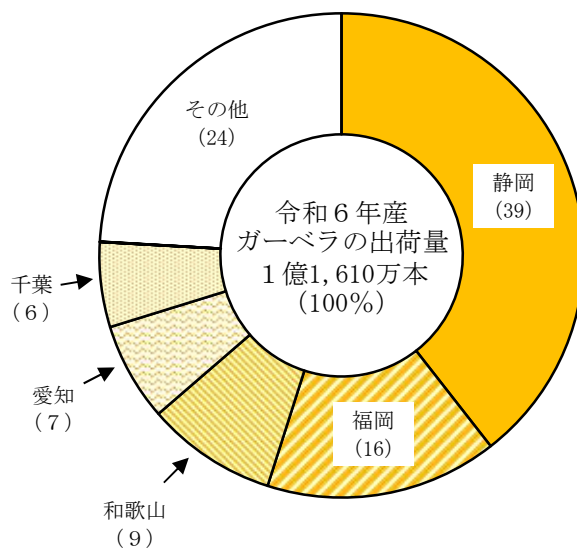


図 17 ガーベラの都道府県別出荷量割合



ク トルコギキョウ

作付面積は380haで、前年産に比べ7ha（2％）減少した。

出荷量は7,830万本で、前年産に比べ600万本（7％）減少した。これは、作付面積の減少に加え、夏期の高温の影響により葉焼けや花焼けが発生したこと等による。

都道府県別出荷量割合は、長野県が14％で最も高く、次いで熊本県が12％、福岡県が10％、静岡県が5％、高知県が4％となっている。

図 18 トルコギキョウの作付面積及び出荷量の推移

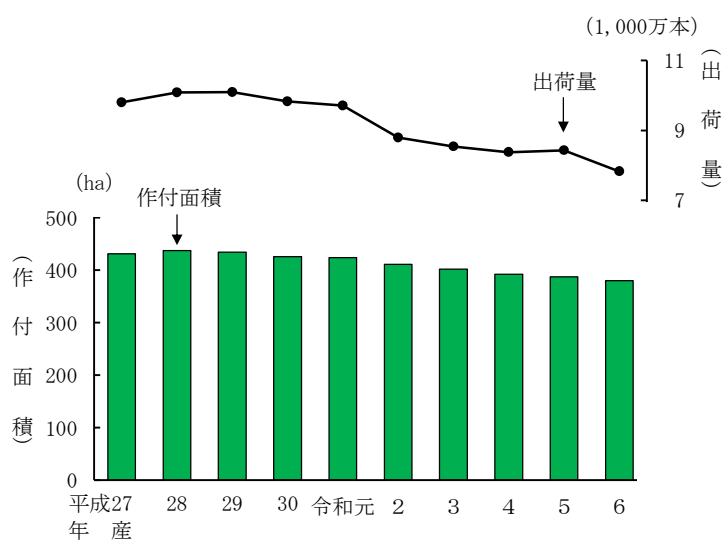
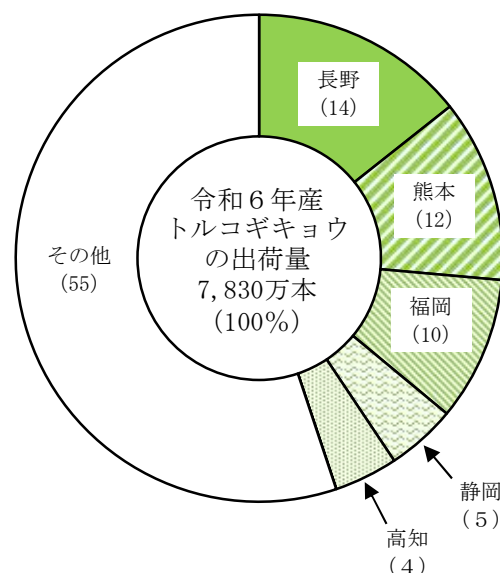


図 19 トルコギキョウの都道府県別出荷量割合



ケ ゆり

作付面積は586haで、前年産に比べ23ha（4％）減少した。

出荷量は9,800万本で、前年産に比べ380万本（4％）減少した。

都道府県別出荷量割合は、埼玉県が22％で最も高く、次いで新潟県及び高知県がそれぞれ10％、宮崎県及び北海道がそれぞれ6％となっており、この5道県で全国の約5割を占めている。

図 20 ゆりの作付面積及び出荷量の推移

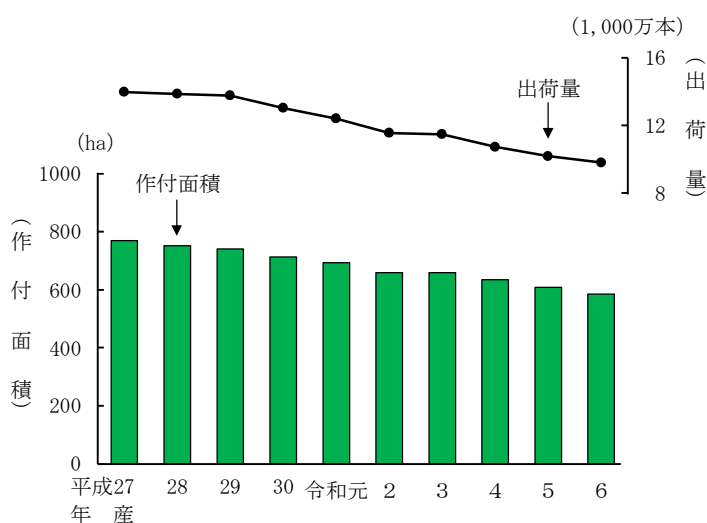
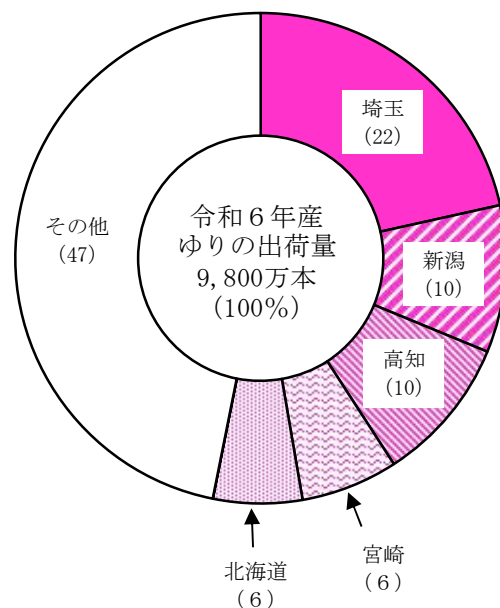


図 21 ゆりの都道府県別出荷量割合



コ アルストロメリア

作付面積は81haで、前年産に比べ1ha（1％）増加した。

出荷量は5,360万本で、前年産に比べ90万本（2％）減少した。

都道府県別出荷量割合は、長野県が41％で最も高く、次いで愛知県が20％、山形県が10％、北海道が9％となっており、この4道県で全国の約8割を占めている。

図 22 アルストロメリアの作付面積及び出荷量の推移

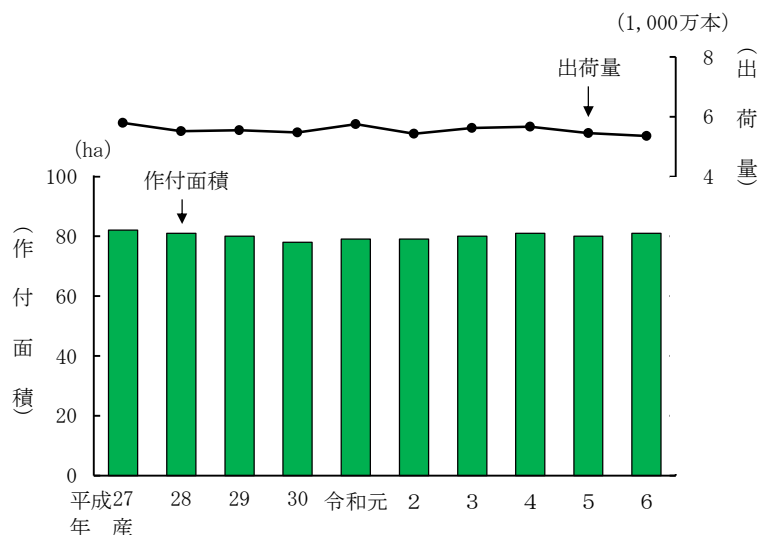
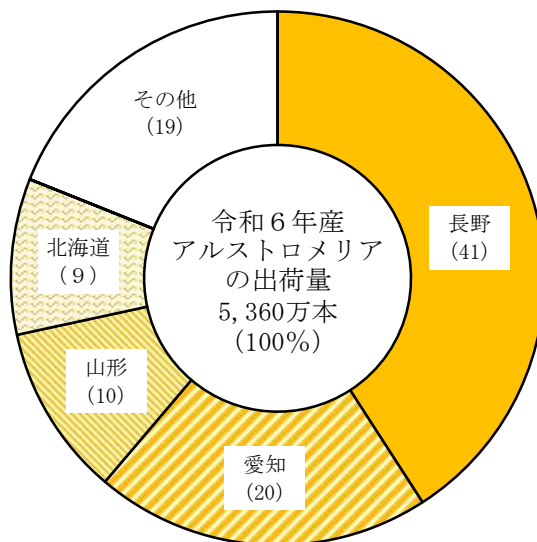


図 23 アルストロメリアの都道府県別出荷量割合



サ 切り葉

作付面積は542haで、前年産に比べ8ha（1％）減少した。

出荷量は7,400万本で、前年産に比べ710万本（9％）減少した。これは、夏期の高温の影響や9月以降の長雨による日照不足により、生育不良がみられたこと等による。

都道府県別出荷量割合は、東京都が30％で最も高く、次いで沖縄県が21％、鹿児島県が15％、静岡県が8％、千葉県が5％となっており、この5都県で全国の約8割を占めている。

図 24 切り葉の作付面積及び出荷量の推移

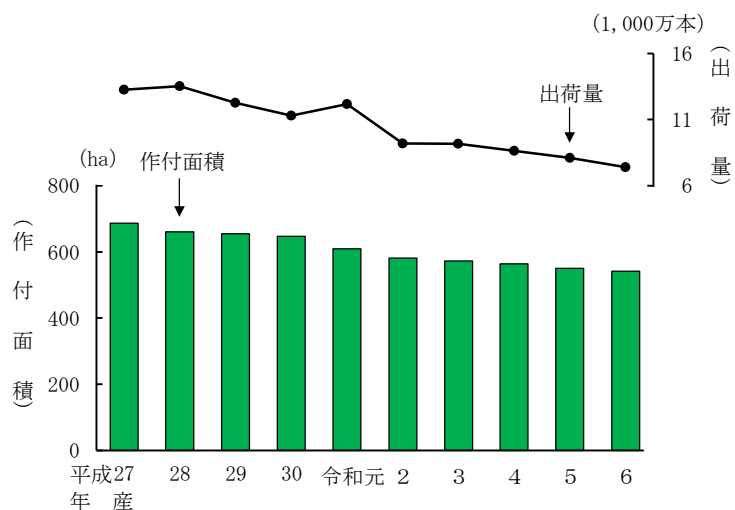
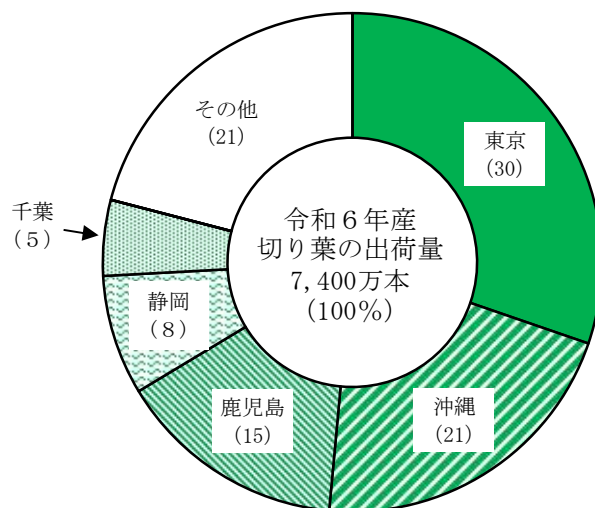


図 25 切り葉の都道府県別出荷量割合



シ 切り枝

作付面積は3,500haで、前年産に比べ75ha（2％）減少した。

出荷量は1億9,460万本で、前年産に比べ1,090万本（5％）減少した。

都道府県別出荷量割合は、静岡県及び茨城県がそれぞれ16％で最も高く、次いで宮崎県及び愛媛県がそれぞれ5％、和歌山県が4％となっている。

図 26 切り枝の作付面積及び出荷量の推移

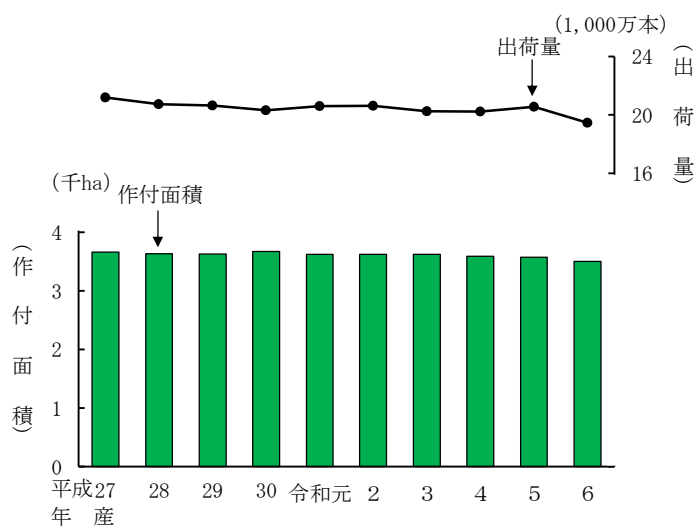
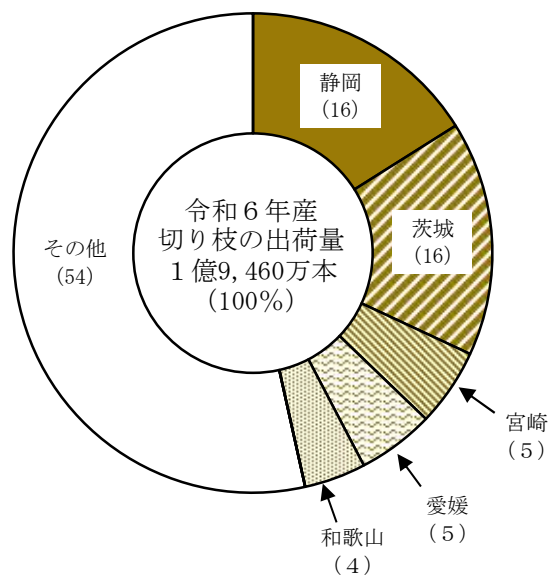


図 27 切り枝の都道府県別出荷量割合



(2) 球根類

収穫面積は204haで、前年産に比べ25ha（11％）減少した。これは、生産者の高齢化等の労力事情により規模縮小があったこと等による。

出荷量は5,810万球で、前年産に比べ1,000万球（15％）減少した。これは、収穫面積の減少に加え、夏期の高温により早枯れが発生し、球根の肥大が低下したこと等による。

都道府県別出荷量割合は、鹿児島県が24％で最も高く、次いで新潟県が17％、富山県が16％、宮崎県が11％となっており、この4県で全国の約7割を占めている。

図 28 球根類の収穫面積及び出荷量の推移

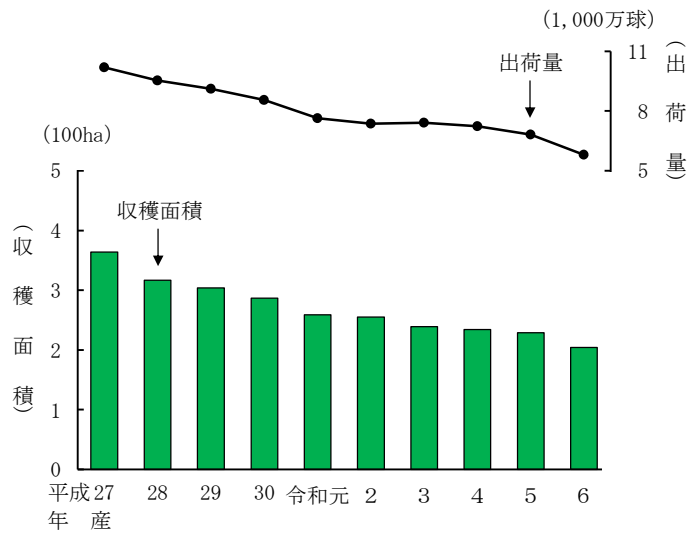


図 29 球根類の都道府県別出荷量割合

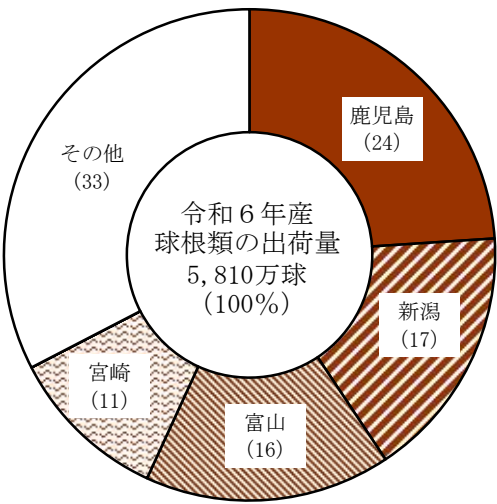


表 3 令和6年産球根類の収穫面積及び出荷量（全国）

類 別	収 穫 面 積	出 荷 量	対 前 年 産 比	
			収 穫 面 積	出 荷 量
	ha	万球	%	%
球 根 類	204	5,810	89	85

(3) 鉢ものの類

収穫面積は1,364haで、前年産に比べ36ha（3%）減少した。

出荷量は1億6,330万鉢で、前年産に比べ1,210万鉢（7%）減少した。これは、収穫面積の減少に加え、夏期の高温の影響により生育不良がみられたこと等による。

都道府県別出荷量割合は、愛知県が26%で最も高く、次いで埼玉県及び静岡県がそれぞれ8%、岐阜県が6%、千葉県が5%となっており、この5県で全国の約5割を占めている。

品目別出荷量割合は、観葉植物が23%で最も高く、次いで花木類が17%、シクラメンが8%、洋ラン類が7%となっている。

図 30 鉢ものの類の収穫面積及び出荷量の推移

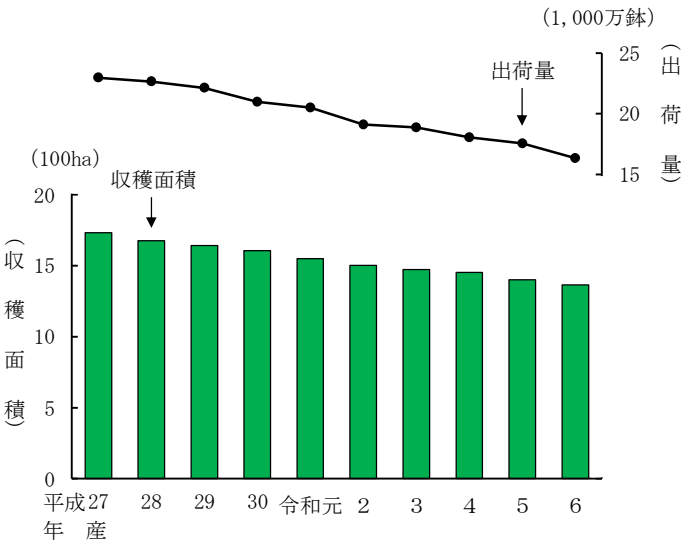


図 31 鉢ものの類の都道府県別出荷量割合

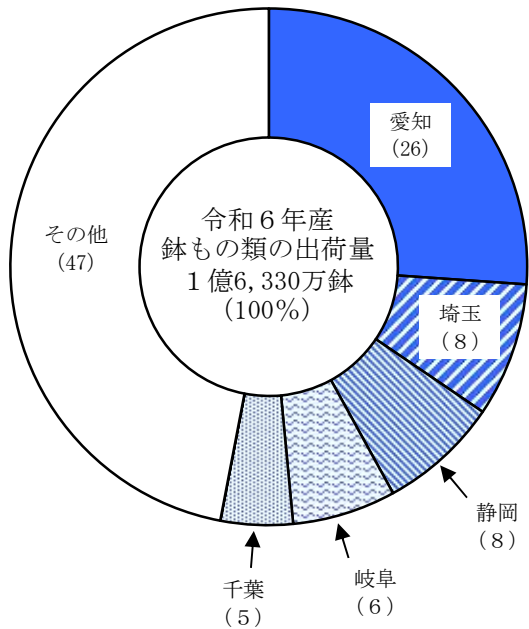


図 32 鉢ものの類の品目別出荷量割合

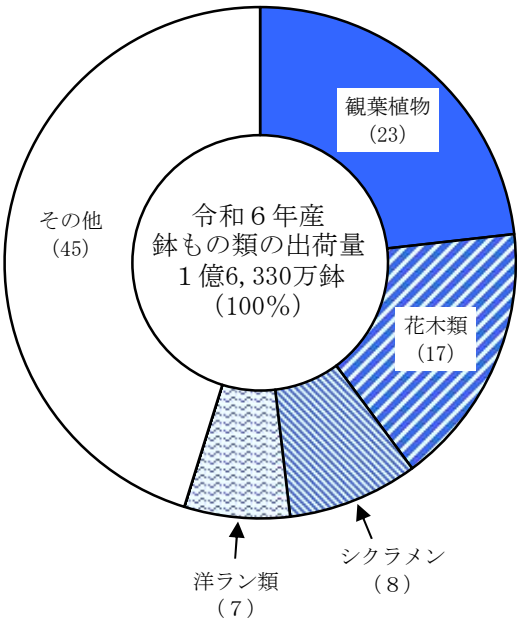


表 4 令和 6 年産鉢ものの類の収穫面積及び出荷量（全国）

類・品目	収 穫 面 積	出 荷 量	対 前 年 産 比	
			収 穫 面 積	出 荷 量
	ha	万鉢	%	%
鉢 物 の 類	1,364	16,330	97	93
うち シクラメン	150	1,350	99	94
洋ラン類	156	1,090	96	96
観葉植物	244	3,790	96	93
花木類	270	2,720	98	94

注：鉢ものの類の値は、表章されている内訳品目以外の品目を含んだ合計である。

ア シクラメン

収穫面積は150haで、前年産に比べ1ha（1％）減少した。

出荷量は1,350万鉢で、前年産に比べ80万鉢（6％）減少した。これは、収穫面積の減少に加え、夏期の高温の影響により生育不良がみられたこと等による。

都道府県別出荷量割合は、長野県が12％で最も高く、次いで愛知県が11％、群馬県が7％、千葉県及び福島県がそれぞれ6％となっている。

図 33 シクラメンの収穫面積及び出荷量の推移

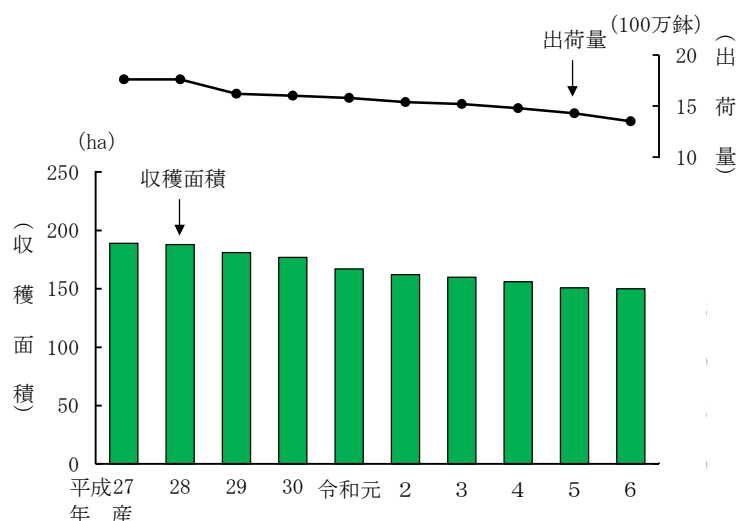
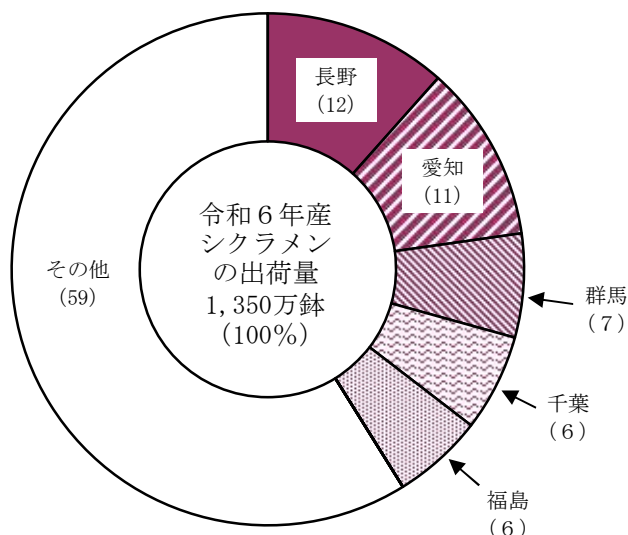


図 34 シクラメンの都道府県別出荷量割合



イ 洋ラン類

収穫面積は156haで、前年産に比べ7ha（4％）減少した。

出荷量は1,090万鉢で、前年産に比べ50万本（4％）減少した。

都道府県別出荷量割合は、愛知県が23％で最も高く、次いで熊本県が11％、千葉県が9％、福岡県が8％、山梨県が6％となっており、この5県で全国の約6割を占めている。

図 35 洋ラン類の収穫面積及び出荷量の推移

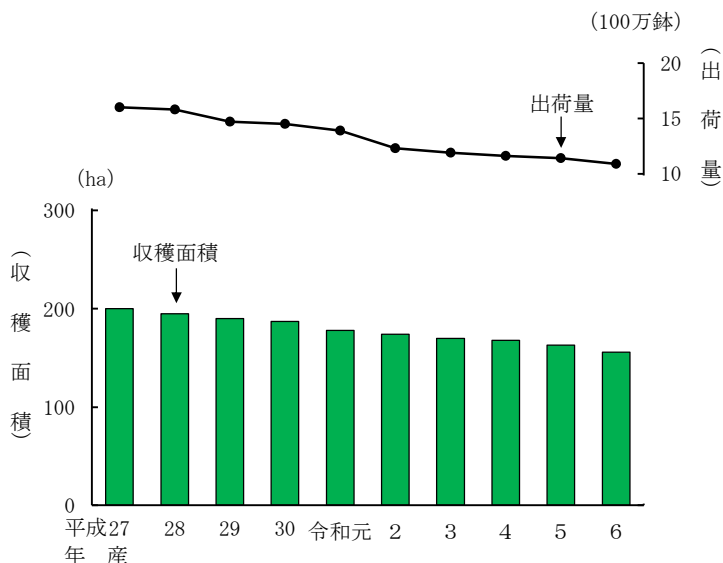
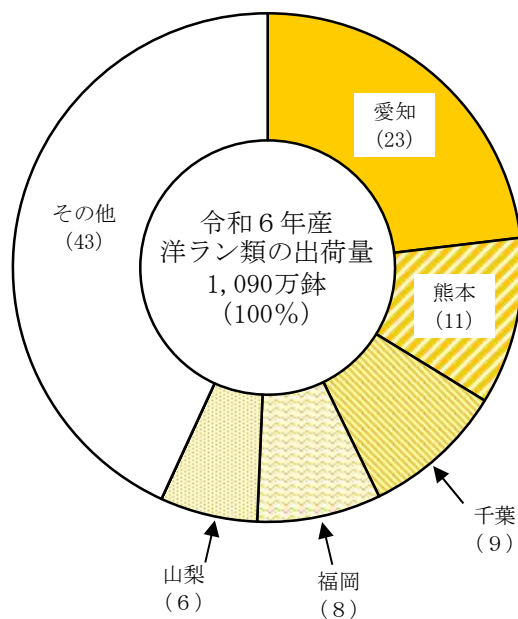


図 36 洋ラン類の都道府県別出荷量割合



ウ 観葉植物

収穫面積は244haで、前年産に比べ10ha（4％）減少した。

出荷量は3,790万鉢で、前年産に比べ300万鉢（7％）減少した。これは、収穫面積の減少に加え、夏期の高温の影響により葉焼けが発生したこと等による。

都道府県別出荷量割合は、愛知県が48％で最も高く、次いで静岡県が13％、三重県が9％、鹿児島県が4％、千葉県が3％となっており、この5県で全国の約8割を占めている。

図 37 観葉植物の収穫面積及び出荷量の推移

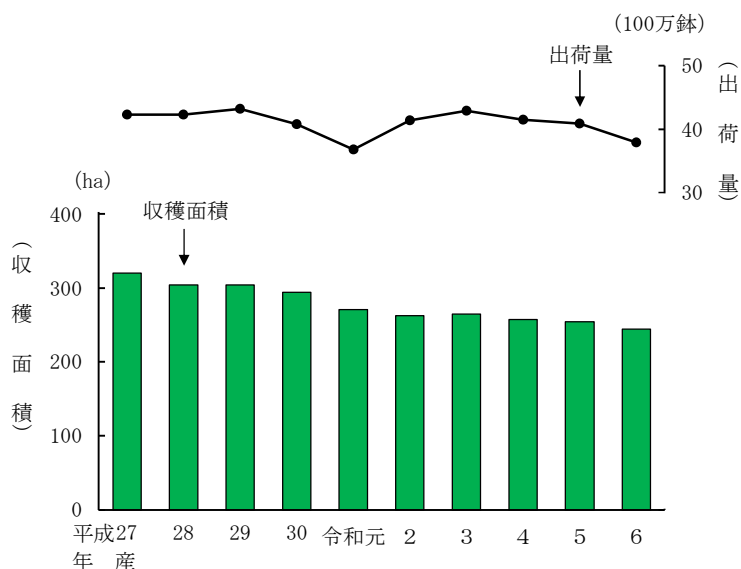
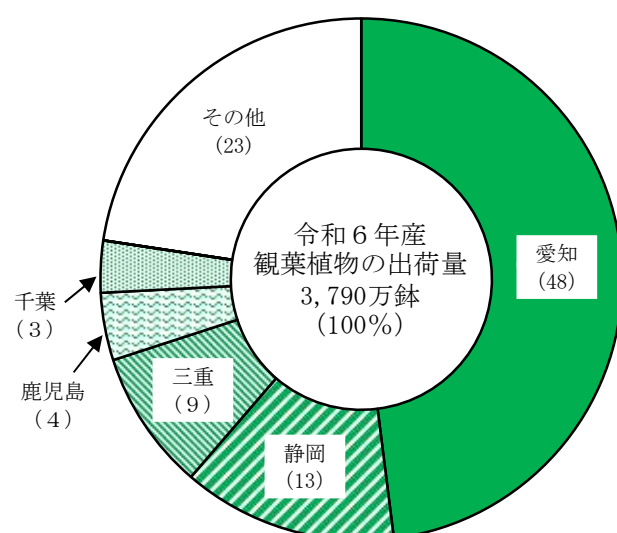


図 38 観葉植物の都道府県別出荷量割合



エ 花木類

収穫面積は270haで、前年産に比べ5ha（2％）減少した。

出荷量は2,720万鉢で、前年産に比べ180万鉢（6％）減少した。これは、収穫面積の減少に加え、夏期の高温の影響により葉焼けが発生したこと等による。

都道府県別出荷量割合は、愛知県が22％で最も高く、次いで新潟県が15％、岐阜県が14％、埼玉県が8％、静岡県が7％となっており、この5県で全国の約7割を占めている。

図 39 花木類の収穫面積及び出荷量の推移

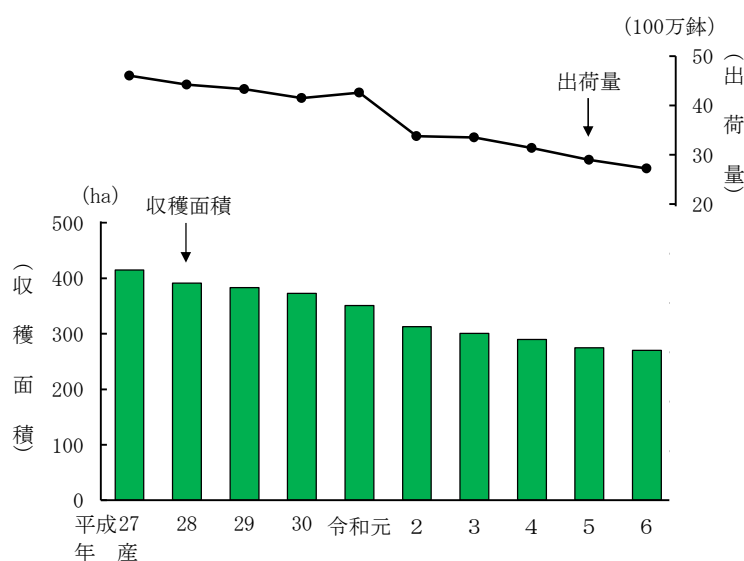
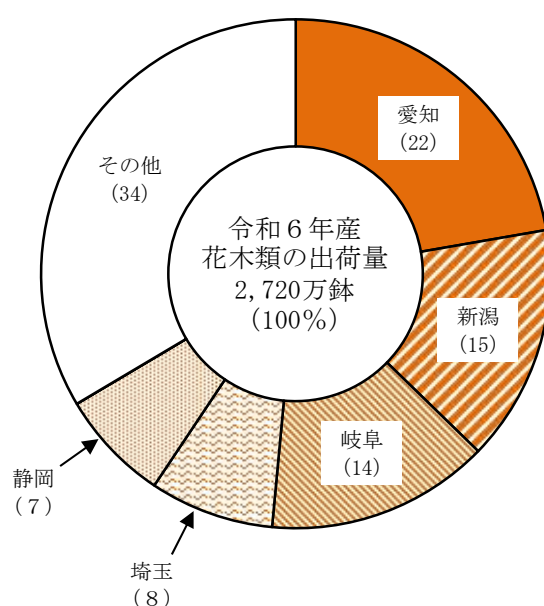


図 40 花木類の都道府県別出荷量割合



(4) 花壇用苗ものの類

作付面積は1,193haで、前年産に比べ30ha（2％）減少した。

出荷量は4億9,710万本で、前年産に比べ1,830万本（4％）減少した。

都道府県別出荷量割合は、埼玉県が10％で最も高く、次いで愛知県が7％、千葉県が6％、奈良県及び福岡県がそれぞれ5％となっている。

図 41 花壇用苗ものの類の作付面積及び出荷量の推移

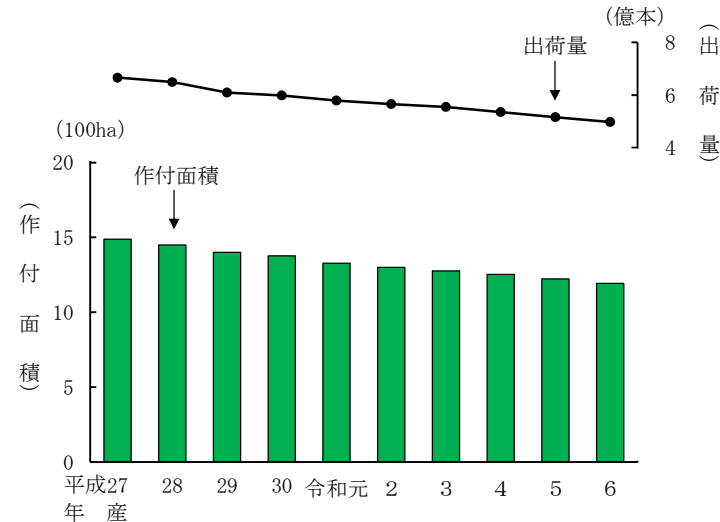
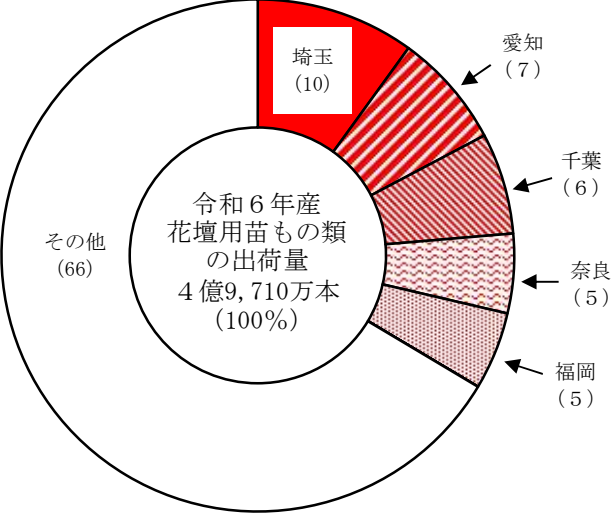


図 42 花壇用苗ものの類の都道府県別出荷量割合



このうち、パンジーの作付面積は227haで、前年産に比べ2ha（1％）減少した。

出荷量は9,690万本で、前年産に比べ170万本（2％）減少した。

都道府県別出荷量割合は、埼玉県が8％で最も高く、次いで神奈川県、愛知県及び福岡県がそれぞれ6％、茨城県が5％となっている。

図 43 パンジーの作付面積及び出荷量の推移

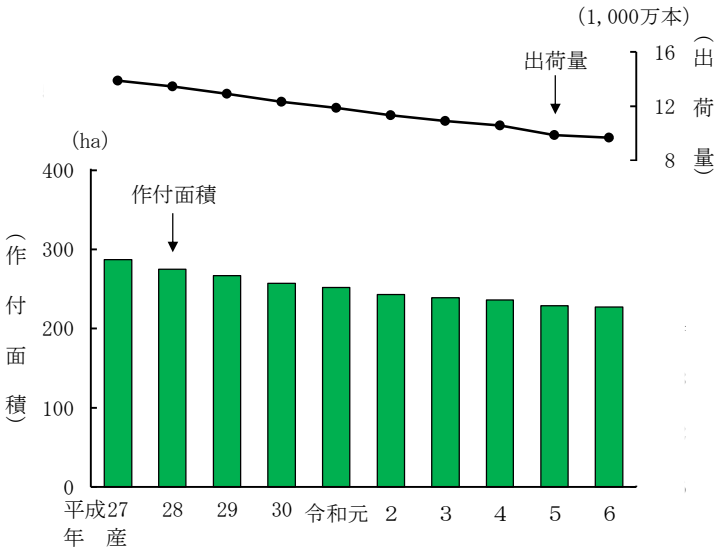


図 44 パンジーの都道府県別出荷量割合

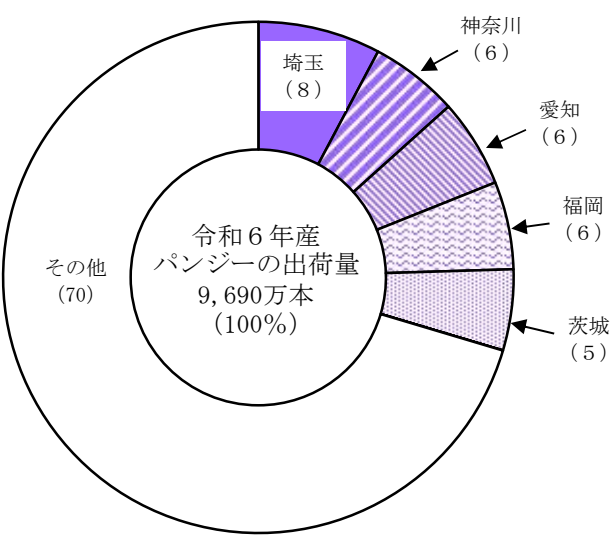


表 5 令和 6 年産花壇用苗ものの類の作付面積及び出荷量（全国）

類・品目	作付面積	出荷量	対前年産比	
			作付面積	出荷量
	ha	万本	%	%
花壇用苗ものの類	1,193	49,710	98	96
うちパンジー	227	9,690	99	98

注：花壇用苗ものの類の値は、表章されている内訳品目以外の品目を含んだ合計である。